

ベーゼンドルファーで学んで楽しむ



真嶋雄大  
音楽評論

# 美女と野獣の

トーク & コンサート with Bösendorfer

各回 13:30 開場 / 14:00 開演



© 北原真

館野泉

スクリャーピン：2つの小品から、夜想曲  
光永浩一郎：サムライ 他

(トークテーマ)

天上に煌く、左手のピアノイズム

2019  
4/6  
sat



© Akira Mura

田部京子

ゲスト：中村あんり(オーボエ)

モーツァルト：ソナタ ホ短調 K.304 (300c)  
シューベルト：即興曲 op.142-3 他

(トークテーマ)

音楽史に燦然と輝く名作たち

2019  
8/31  
sat



© 北原真

三船優子

ゲスト：布能美樹(フルート)

バッハ：主よ、人の望みの喜びよ  
バッハ(ブゾーニ編)：シャコンヌ 他

(トークテーマ)

鍵盤音楽の系譜

2019  
11/16  
sat



© Yayu Mori

三浦友理枝

ショパン：24の前奏曲より第15番「雨だれ」  
ドビュッシー：前奏曲集より「亜麻色の髪の乙女」

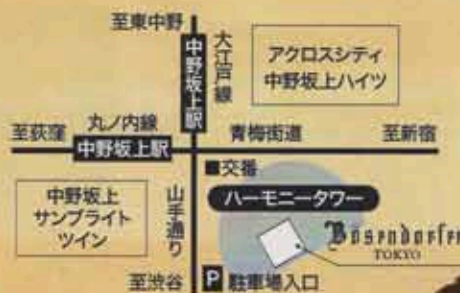
ラフマニノフ：前奏曲 Op.32-2「鐘」 他

(トークテーマ)

多彩なるロマンティック・ピアノ

2020  
2/22  
sat

**Bösendorfer TOKYO**  
ベーゼンドルファー東京ショールーム内  
東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー1F 東  
(丸の内線、大江戸線「中野板上」駅1番出口 徒歩3分)



全席自由 3,500円(当日クレジットカード払いのみ)  
ご予約・お問い合わせ **03-6681-5189**  
受付時間：10:00-18:00(日曜・月曜定休)





館野泉 Izumi Tateno

クラシック界のレジェンド、82歳ピアニスト。領域に捉われず、分野にこだわらず、常に新鮮な視点で演奏芸術の可能性を広げ、不動の地位を築いた。2002年に脳溢血で倒れ右半身不随となるも、しなやかにその運命を受けとめ、「左手のピアニスト」として活動を再開。忌さることのない情熱を、一層音楽の探求に傾け、独自のジャンルを切り開いた。

“館野泉の左手”のために捧げられた作品は、10ヶ国の作曲家により、90曲にも及ぶ。80歳寿記念公演では自らに捧げられた作品を含め4つのピアノ協奏曲を一気に演奏し、満場の喝采を浴びた。もはや「左手」のこだわりなど必要ない、身体を超える境地に至った「真の巨匠」の風格は、揺るぎない信念とひたむきな姿がもたらす、最大の魅力である。今年、日本とフィンランド国交樹立100周年の親善大使として記念公演を5月25日東京オペラシティで開催する。

館野泉公式HP: <http://www.izumi-tateno.com>



田部京子 Kyoko Tabe

17歳で日本音楽コンクールに優勝。東京芸術大学に進学後、ベルリン芸術大学、大学院を首席で卒業。エビナル国際ピアノコンクール優勝、シュナーベルコンクール優勝、ミュンヘン国際音楽コンクール(ARD)第3位など受賞多数。著名な海外オーケストラとの共演も多く、世界のトップアーティストからも厚い信頼を寄せられている。

CDは35枚をリリース、国内外で特選盤に選出されるほか、レコード・アカデミー賞を受賞するなど高い評価を受けている。リサイタルでは、現在「シューベルト・プラス」シリーズが大好評を博している。NHKドラマ「夏目漱石の妻」の挿入曲「シューベルト:ピアノ・ソナタ第21番」の演奏でも話題を呼んだ。第一線で演奏活動を続ける傍ら、桐朋学園大学院大学教授も務める。現在、日本を代表する実力派ピアニストとしてますます人気を集めている。

公式HP: <http://www.kyoko-tabe.com>



三船優子 Yuko Mifune

幼少時代をニューヨークで過ごす。ジェローム・ローエンター、井口秋子、奥村洋子、安川加寿子、マーティン・キャンに師事。桐朋学園大学在学中に第57回日本音楽コンクール第1位。首席卒業後、文化庁派遣研修員としてジュリアード音楽院に留学。91年にアメリカデビュー、同年アワーバック国際ピアノコンクール、

ジュリアードソリストオーディションでも優勝。帰国後はリサイタルはもとより、国内外の主要オーケストラと共演。その活動は海外にも及ぶ。

ラジオパーソナリティ、NHK「週刊ブックレビュー」の司会を務めるなど多方面で活躍。マスタークラスやアウトリーチの教育活動にも力を入れる。近年はドラムの堀越彰と「最小にして最大のオーケストラ」と称するクラシックユニットOBSESSIONで新境地を開いている。

今年デビューより30周年を迎える。京都市立芸術大学非常勤講師。



三浦友理枝 Yurie Miura

2005年、英国王立音楽院大学課程を首席で卒業。2007年、同音楽院・修士課程を首席で修了。2001年「第47回マリア・カナルス国際音楽コンクール」ピアノ部門第1位。2006年「第15回リーズ国際ピアノ・コンクール」特別賞受賞。これまでに、東フィル、読響、東響、日フィル、群響、大フィル、京響、名フィル、札幌、

広響、九響、仙台フィル、山響、シンフォニア・ヴァルソヴィア、ザルツブルク・モーツァルト管など国内外の主要オーケストラと共演。また「東京・春・音楽祭」「ラ・フォル・ジュルネ」「仙台クラシックフェスティバル」「いしかわ・金沢 風と緑の美都音楽祭」等の音楽祭にも数多く招かれている。2005年、エイベックス・クラシックスよりCDデビュー。2018年、6枚目のソロアルバム「ショパン:バラード&スケルツォ」をリリース。2016年、第26回新日鉄全音楽賞受賞。

### ミニコラム

## 2019年は日本オーストリア友好150周年

今からちょうど150年前の1869年(明治2年)、日奥修好通商条約締結のために日本を訪れていたオーストリア・ハンガリー帝国の使節団一行は、明治天皇に謁見し、さまざまな高価な品々とともにベーゼンドルファーのグランドピアノを献上しました。使節団の若い団員によって、ヨハン・シュトラウスのワルツやポルカ、メンデルスゾーンの曲が演奏され、明治天皇は屏風の向こうでお聴きになられたそうです。ベーゼンドルファーが日本における西洋音楽の普及と両国国交への橋渡しとなった象徴的な出来事と言えるでしょう。(写真:明治天皇に献上したピアノのデザインを復元した(エンペラー))



## 真嶋 雄大 (音楽評論)

5歳からピアノを、中学から作曲を学ぶ。1973年に〈ソプラノと和洋合奏のための夜宴〉を発表、自ら指揮して注目された。朝日新聞、「音楽の友」等媒体、演奏会の曲目解説、CDやDVDのライナーノート、音楽劇の台本等旺盛な執筆活動とともにNHK-FM等への出演、コンクールの審査を続け、また全国のホールなどでレチャーター・コンサートやプロデュースを展開して好評を博している。その模様が2017年「日経ビジュアル音楽堂」で紹介された。著書に「ピアニストの系譜(音楽之友社)」、「グレン・グールドと32人のピアニストたち(PHP研究所)等、監修や共著多数。現在日本演奏連盟専門委員、コラニー文化ホール・アーティストック・アドバイザー等。「真嶋雄大の面白クラシック講座」主宰。

<http://ameblo.jp/office-claret/>



© 真嶋雄大

## Bösendorfer TOKYO

ウィーンの至宝に出会える場所。



ベーゼンドルファー・ピアノを、存分に堪能できる場所、それがベーゼンドルファー東京です。国内最大級の展示台数を誇るショールームで、お探しの一台にきっと出会えます。

- 展示モデルを実際にご試弾いただけます。(要予約・無料)
- ウィーンで経験を積んだ調律技術者が、定期調律、修理など、様々なご要望にお応えします。

※ 許可のない録音、録画、写真撮影はご遠慮くださいますようお願い致します。 ※ プログラムは都合により変更になる場合がございます。

主催:ベーゼンドルファー東京

